西東京市市民協働推進センター

令和６年度第４回運営委員会会議録（未定稿）

■開催日時：令和６年 10 月 21 日(月)午後７時～８時
■開催場所：オンライン（Zoom）開催
■出席委員：川村委員、久松委員、山本委員、豊久委員、竹内委員、犬飼委員<以上６名>
■事 務 局：樫出センター長、鈴木副センター長、塚澤地域福祉推進係主任

1.報 告 事 項

1．事業報告について

事務局より、7-9 月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談について説明があった。

委　員：7 月に開催された団体交流会に参加した感想だが、現在活動している方々の多くが高齢化しており、解散を余儀なくされている団体も見受けられた。一方で、市の市民協働企画提案事業（U29 チャレンジ部門）の企画が進行中であり、若い世代の参加も確認できた。世代間ギャップや価値観の違いがある中で、共通の目的のために協力できる方法を模索することが重要だと感じた。自分が想像していたよりも若い参加者が多かったことが印象的だ。また、新たに活動を開始したいという団体が増えているように感じられ、これらの団体をうまくつなげることができれば、さらに活発な活動が期待できるのではないかと思った。

委員長：良い傾向なので、この動きをつぶさないように連携などが取れると良い。N フェスがこの目的に役に立つのではないかと考えており、N フェスの実行委員会も開催されたので、実行委員に状況を聞きたい。

委　員：開催場所も決定したので、次回以降企画の詳細を深堀りしていきたい。若いグループと経験豊かなグループが一緒に活動できるよう、今後の委員会でその方法を考えていきたい。

2．４月以降の事業について

事務局より、10 月以降の実施事業について説明があった。

委員長：N フェスは新しい施設を利用して開催するため、使い勝手なども活動団体にとって興味があると思う。そのあたりも含めて周知できると良い。田無庁舎の２階フロアーでの展示は何団体位できるのか。

事務局：市が所有する展示パネルは９枚ある。片面に２団体、両面で４団体展示できるので、合計 36 団体展示可能だ。足りなければ、ゆめこらぼが所有しているパネルなども利用する予定なので、昨年度同様の展示数は確保できる。

委員長：協働のまちづくりは申込制か。

事務局：申込制ではない。コール田無の多目的ホールは 160 名入場可能だ。

委員長：ほくっとまつりの内容はどのようなものか。

事務局：目的は北東部の地域協力ネットワークの周知だ。昨年は文理台公園で開催され、中学生が協力してくれた。テントを立てて食べ物やゲームの提供があり、スタンプラリーやキャラクターの選出などを行った。今年度も MURP の協力もあり、家族連れでも楽しめる内容となる予定だが、現在今年の内容を詰めている段階だ。

2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

委員長：意見がなければ確定稿とする。

3. 協　議　事　項

1. ゆめこらぼについて

事務局より、令和６年度上半期 西東京市市民協働推進センター運営事業報告（案）について説明があった。

委員長：40 インチモニターで DVD は見られるのか。パソコンには繋げられるのか。

事務局：モニターでは DVD 再生はできないが、パソコンは繋げられる。現在、N フェスの実行委員会はサロンスペースにて、職員一同で Zoom に入って開催している。場所の提供は可能なので、ハイブリッドで開催できる。

委員長：音声はどうしているのか。

事務局：集音マイクを活用している。

委　員：夕方の来訪者が少ないということだが、現在の状況を教えて欲しい。年齢層など傾向の情報があれば聞きたい。

事務局：サロンや印刷機を利用する方は、日中が多く、夕方以降は極端に少ない。

委員長：若い人たちに対して夕方サロンが空いているなどの情報提供を積極的にしているのか。

事務局：情報提供は積極的に行っていない。他のセンターはスペースが広く学生が利用しているセンターもあるが、ここはたくさん入れる状況でもないので、そのような利用方法は難しいと考えている。

委員長：印刷作業などでの利用となるのか。

事務局：作業と打合せなどだ。市が若い方たちと打合せをする際は、夕方以降の時間に利用することはある。

委　員：多摩８市地域情報交換会での情報交換で多様なヒントを得ることができたとあるが、どのような内容か知りたい。

事務局：８市は各センターにより事業内容も違う。センター自体が寄付を受けてそれを助成金に活用しているところもあるなど、そういう事が参考になった。

委　員：高齢化が進んでいることと若い人たちに動きがあるということだが、ゆめこらぼはどの世代にアプローチしていきたいのか。

事務局：意思を持った人たちを幅広く支援したいと考えていろいろな事業をしている。世代に限らず積極的な方たちに知ってもらい応援していくことを目的としている。

委　員：報告書の課題の部分だが、捉え方がわからない。目標があり、結果がある。目標値に対して、達していれば課題はないと思うが、記載が統一されていない。例えば社会教育委員会のところでは課題に実習生に受入れについて記載されているが、それを記入すると課題が広がりすぎている。逆に研修会への参加は目標値に対し結果は４分の１だが、課題のところは特になしと記載されている。課題の書き方は目標に対して達していないからという内容を記載するのか。年度当初の配布資料で令和５年度の成果と課題があるが、過去の課題に対して現状はこのようになっているという掲載がなければ、後に継続していかないのではないか。

事務局：昨年も最終的な課題に関しては通年で行っており、模索している。半期の課題は中間地点なので、数値的なものの課題も必要だが、活動している中での課題を記載している。数値的なものは通年で評価している。

委員長：課題は継続的にその時々に分断しないようして欲しい。

委　員：10 月以降の事業についてだが、登録団体以外の市民に対する広報の仕方はどのように考えているのか。

事務局：市報掲載をしている。協働のまちづくりに関してはチラシを多めに作り多方面への配架をしていく。

委　員：相談事業において職員のスキルアップが必要であると記載されているが、スキルアップとはどのようなことを指すのか。

事務局：現在、スタッフ全員がオールラウンドに相談に乗れる状況ではない。相談の一つの方向性として、他の団体や組織につなげることも有効な解決方法であるが、把握できていないスタッフもおり、そのあたりのスキルを上げる事も含まれている。

委　員：実習生受入れの件だが、我々が学生時代にはなかった学部が増えてきていると思う。協働やコミュニティをテーマにした学科があるのであれば、研修という意味で、ゆめこらぼや登録団体のイベントの手伝い等で受入れてもらえるのではないか。学生にとっては就職をする際のアピールポイントになるので、そういう方面からのアプローチも考えてはどうかと思う。

事務局：武蔵野大学には起業を目指している学部もある。若い方の中にも周りとつながりながら地域を盛り上げようという方もいる。今回の協働のまちづくりでもパネリストになってもらい若い方も地域のまちづくりに参加できることを示せるような内容で組み立てている。

委員長：N フェスの実行委員として若い方も勧誘するとよい。

事務局：学生は通過点になってしまうが、協力してもらう形で考えていく。

そ　の　他

1．次回運営委員会日程について

日時：令和 6 年 12 月 16 日（月）19 時～20 時

会場：オンライン（Zoom）